

第5章 学校における実践事例

課題設定力、自己実現に向かう行動力の育成を重点にした「総合」

山梨県笛吹市立浅川中学校

山梨県笛吹市八代町岡 1111

電話番号：055-265-2449

E-mail：asakawa_jhs@fuefuki.ed.jp

学校や地域に関する情報

(1) 学校規模

生徒数 459 名、教職員数 34 名、学級数 16 学級

(2) 学校の教育活動の特色

少人数によるきめ細かな教科指導を行ったり、学生ボランティアやNPOを活用した学力向上の取組を行ったりしている。

(3) 地域の特色

本校は甲府盆地の南東、御坂山地に源を発し、曾根丘陵の縁に沿って流れる浅川がつくる扇状地に位置している。本校の学区である笛吹市八代町・境川町は、ともに果樹及び野菜を主体とする農業地帯である。しかし、他産業への就業割合が増加する一方で農業就業人口は漸減傾向にある。このような実情において農業の振興とともに、農村地域社会の近代化にも意欲的に取り組んでいる。

総合的な学習の時間の全体計画

1. 目標

本校の生徒は、地域の行事などにも積極的に参加し挨拶もよく行う。全校生徒が部活動に入部しており、スポーツ好きで活動も盛んである。また、集団としてのまとまりもよく、自治を目

標に生徒会活動にも一人一人が積極的に取り組んでいる。しかし、自ら課題をもつことや意欲の面ではやや欠けているところが見られる。

このような生徒の実態から、総合的な学習の時間の目標を設定した。したがって、地域や社会とかかわらせながら、身の回りの生活を見つめたり、自ら疑問をもったりする力を特に育成していきたい。

2. 育てようとする資質や能力及び態度

本校では、育てようとする資質や能力及び態度を次の4つに設定した。

課題設定の能力

問題解決の能力

学習への主体的・創造的・協同的な態度

生き方・自己実現に向かって行動する力

は「他者や社会とのかかわりに関する視点」、 は「学習方法に関する視点」、 は「自分自身に関する視点」、 は「自分自身に関する視点」と「他者や社会とのかかわりに関する視点」を重視して設定した。

3. 内容

福祉や地域に関するボランティアについての学習 1年

富士山周辺の自然についての学習 1年

職業や自己の将来についての学習 2年

山梨県内の自然・産業・文化についての学習 2年

日常生活や身近な社会とのかかわりを意識した生徒の興味・関心に基づく課題についての学習 3年

京都・奈良の産業や文化についての学習 3年

生徒は、将来いずれ他県や他国で暮らすかもしれないが、たとえどこに住んだとしても、その地域のなかで主体的に生きる力を身に付けさせたいという考えから上記～の内容を設定した。また、探究的な学習として取り組んでいくことで学校行事と同様の成果が期待できる活動を内容に取り入れている。

4. その他の特色

本校では特に身に付けさせたい力として、

課題設定の能力と、生き方・自己実現に向かって行動する力の2つを指導の重点と位置付けている。

また、学習の評価として、資質や能力及び態度を受けた4つの評価観点を設定している。そして、生徒がこの時間の目標について、どの程度実現しているのかという状況を丁寧に見取り、把握するために評価観点ごとに数項目の評価規準を設定している。この評価規準は、すべての学年が探究的な学習として授業を創っていくために、教師間の共通理解を図るものになっている。

平成22年度 笛吹市立浅川中学校 「総合的な学習の時間」全体計画



総合的な学習の時間の実践事例

第3学年 単元名「笛吹づくり」〔笛吹市と自分自身の可能性に挑戦するプロジェクト〕

1. 年間指導計画

年間に三つの単元学習を計画した。4・5月は『京都・奈良の産業や文化についての学習』、6月～12月は『笛吹づくり』、1月～3月は『個人テーマの探究』である。

では、修学旅行に向け、京都・奈良の産業・文化について学習した。数名の外部講師を招き、自分の興味に基づき深く学ばなかで、京都・奈良についての自己テーマを設定し探究していった。自己のテーマに基づいて巡った足跡を旅行記にまとめ、さらに新しい課題を見いだせるようにした。では、今生活しているこの笛吹市で、未来の理想の地域と自分像を描き、シミュレーションをしてみる。笛吹市の現状と課題は何か、自分がしたいことをこの笛吹市で実現するとすると、何を知り何をすればよいのか、どのようなプロジェクトを立ち上げればよいのかを探っていく。地域に出ていく実地調査や、他者に向けたプレゼンテーションで、主体的・創造的・協同的な活動を仕組んでいく。では、三年間の集大成として、自己テーマを設定し探究しまとめることで、自己の生き方を深く考えることができるよう計画した。

2. 単元計画

(1) 単元設定の理由

3年生は、これまでの総合的な学習を経て、「仲間と協同で学習する意識が高まった。」「話し合い活動は、基本的なルールにのっとって円滑に進めることができるようになった。」など、コミュニケーション能力や協同性が高まったといえる。日常生活でも、まだ充分とはいえないが、自主的に活動する姿が多く見られるようになってきた。本単元の学習を通し、「自ら課題を見つけ、課題解決に主体的に取り組む態度」をさらに育てていきたい。そこで、義務教育の最終段階として、自分と地域社会を結び付け、主体的に生きる力を身に付けさせようと考えた。

事前調査で、笛吹市について知っていることや課題などを書き出すことを行ったが、ほとんど書くことができなかった。市の情報を知らないし、知ろうともしなかったという実態が明らかになった。間もなく中学を卒業し市内外のより広い地域で生活する生徒たちに、これまで自分たちを育ててくれたふるさとを学ばせることは必須で急務と考える。この学習を通し育まれ

るであろうふるさとを愛する心は、これからの人生の礎となると期待し、本単元を設定した。

(2) 単元の目標

地域の「現状」「課題」を知り、「理想」を実現するために自分のすべきことを探る学習を通して、主体的に生きる力を養う。

(3) 単元の評価規準

単元全体において、観点「課題設定能力」については規準を、観点「問題解決能力」については規準を、観点「主体性・創造性・協同性」については規準を、観点「生き方」については規準を設定して評価した。(全体計画・単元計画を参照)

本単元33時間目を例にあげると、観点は「主体性・創造性・協同性」、規準は「友達と進んで話し合い、考えを広げたり深めたりしている。」を設定し、場面ごとに以下の観察のポイントをもとに評価を行った。

[観察のポイント]

質問、意見、感想を発表しようとしている。
聞き手に分かりやすいように発表し、質問

意見をしっかりうけとめ、ワークシートに記入している。

聞きとったことや考えたことを、意欲的にワークシートに記入している。

発表に対する意見を聞き、自らの考えを広げたり深めたりしている。

ワークシートへ記入する内容や発表した意見が、自らの考えを広げたり深めたりしている。

(4) 単元の指導計画(38時間)

| 月日 | 時 | ねらいと学習活動 | 評価場面と方法 | 生徒の学習の姿 | 評価観点 | | | | 規準 | |
|---|--|--|----------------------------|---|---|----|-----|----|----|---|
| | | | | | I | II | III | IV | | |
| I 笛吹市を知ろう | | | | | | | | | | |
| 6/4 7/8 7/9 | 1 2 3 | ●課題設定をするなかで、地域社会とのかかわりに関する視点をもつ。 ・単元の目標と学習の流れを理解する。 ・笛吹市について知っていること、課題、理想について書き出す。 ・笛吹市について、各自興味のあるテーマを選ぶ。 ・同じテーマの人と班(4・5人)をつくり、班ごとに課題を設定する。 | 学年 課題 設定 | ・説明を聞き、笛吹市について知っていること、課題、理想について書く場面。 ・興味があるテーマを決め、調べたい内容を書く場面。 (学習態度、ワークシート) | ・ガイダンスの説明をしっかり聞き、興味のあるテーマごとに分かれ、調べたい内容をワークシートに記入している。 | ○ | | | | ⑤ |
| 7/15 7/16 | 4 5 | ●個人で調べ学習や調査を行う。 ・各班の課題を解決するため、個人に担当し、インターネットや資料などで調べ、必要な情報を取捨選択して、まとめる。+ [夏休みの課題] | 個人 情報 収集 | ・インターネットや資料などで調べ、情報を取捨選択して、まとめる場面。(学習態度、ワークシート、自己評価) | ・インターネットや書籍、パンフレットなどを自ら求め、積極的に調べている。 | ○ | ○ | | | ① ④ |
| 8/27 | 6 | ●調べ学習で得たものを持ち寄り、情報を整理してまとめる。 ・班で持ち寄った情報を整理し、見る人にわかりやすい掲示物にまとめる。 | 個人 整理 分析 | ・グループで持ち寄ったものを整理して、掲示物にまとめる場面。 (話し合いの様子、掲示物) | ・各自が持ち寄った情報を整理し、笛吹の現状と課題を分かりやすくまとめている。 | ○ | | | | ⑦ |
| 9/17 9/17 | 7 8 | ●調査したものをまとめ、考察し、発表する。 ・調査内容や考察を、学年の仲間に発表する。 ・各自興味のあるテーマを選択しなおすため、友人の発表を聞く。 | 班 まとめ 表現 | ・まとめたものを友人に発表する場面。 (話し合いの様子、発表内容) | ・自分達が調べて分かったことや考えたことを、聞く人にわかりやすく発表している。 | ○ | | | | ⑧ |
| II 実地調査で探究しよう | | | | | | | | | | |
| 9/24 10/5 | 9 10 | ●発表をもとに、新たに自己のテーマを決め、プロジェクト立案のための課題を設定する。 ・自己の調査や友人の発表をもとに、8つのテーマの中から新たに自己のテーマを決め、グループを編成する。(20人前後) ・グループ内で、自己のアイデアを出し合い、統合整理し、一つのプロジェクトをつくる。 ・笛吹づくりのプロジェクトを立案するための具体的な課題を設定する。 | 学年 課題 設定 | ・自己の課題を設定する場面。 ・話し合っグループをつくる場面。 ・グループ内で、自己のアイデアを出し合い、統合整理し、一つのプロジェクトをつくる場面。 (テーマ設定の学習シート、話し合いの様子、自己評価) | ・テーマごとに集まり、取り組んでいきたい課題を明らかにしている。 ・自分がしていきたいことと地域の課題が一致するアイデアを提案している。 ・グループでアイデアを出し合い、その中から一つに絞り込んでいる。 | ○ | | ○ | | ① ⑤ |
| 10/9 10/14 10/15 10/14 | 11 12 13 14 | ●課題解決に向け、見直しをもって計画を立てる。 ・どんな役割のチームが必要か考える。 ・グループ内で目的別にいくつかの班(3、4人)を結成する。 ・実地調査の計画を立て、準備する。 | 個人 情報 収集 | ・実地調査の計画を立てる場面。 ・実地先への依頼をする場面。 ・質問紙などを準備する場面。 | ・実地調査の計画を立て、実地先への依頼や質問紙などの準備をしている。 | ○ | | | | ① |
| 10/22 10/22 | 15 16 17 18 19 | ●実地調査を行い、情報の収集をする。 ・計画に基づいて、実地調査を行う。 ・班員で分担して、インタビュー・調査・記録・体験などをとする。 | 個人 情報 収集 | ・実地調査で、調査先の方と対応する場面。 ・聞き取りやカメラで記録する場面。 | ・実地調査で、友人と協力分担し、インタビュー・調査・記録をしている。 | ○ | | | | ② |
| 10/22 | 20 | ●実地調査の内容を整理分析する。 ・実地調査の記録内容や・考察などを整理する。 | 個人 整理 分析 | ・調査探究したものを、チームでまとめている場面。 | ・実地調査の記録内容を整理し、わかりやすくまとめようとしている。 | ○ | | | | ⑥ |
| 10/29 | 21 | ●実地調査で得たものをグループでまとめ表現する。 ・まとめを友人の前で発表する。 ・友人の発表を聞き、自分達のテーマについて深く知る。 | 個人 まとめ 表現 | ・まとめを発表する場面。 ・友人の発表を聞く場面。 | ・グループのメンバーにわかりやすく発表しようとしている。 ・友人の発表を、課題意識を持って聞いている。 | ○ | | ○ | | ① ② |
| III プロジェクトの発信をしよう | | | | | | | | | | |
| 11/5 | 22 | ●プロジェクトの再検討をする。 ・自己の調査体験や友人の発表を通し明らかになった課題をもとに、自分達のグループのプロジェクトを再検討する。 | 個人 課題 設定 | ・プロジェクトを再考する場面。 ・チームの再編成をする場面。 ・チームごとに、取り組んでいる課題を明らかにしている場面。 | ・新たなプロジェクトに向け、チームの再編成をしている。 ・より良いプロジェクトになるよう、チームの課題を明らかにしている。 | ○ | | | | ⑤ |
| 11/9 11/12 11/13 11/16 11/19 11/26 | 23 24 25 26 27 28 29 30 | ●再検討したプロジェクトを具現化するため、課題解決にむけ取り組んでいく。 ・各班で調査探究・考察したものを、まとめる。 ・班で分担して、さらなる調査をし情報を集める。 ・プレゼンテーションの準備をする。模造紙・パワーポイントなどを利用し、わかりやすく中身のある発表ができるよう、練習する。 ・各班のまとめを統合してグループ全体で一つのものとし、自分達のプロジェクトをわかりやすくまとめる。 | 個人 情報 収集 整理 分析 | ・チームごとの目的にそって調査探究をしている場面。 ・チームで調査探究・考察したものを、グループでまとめている場面。 ・プレゼンテーションを工夫している場面。 (話し合いの様子、まとめの様子、自己評価) | ・チームの目的にそって調査探究をしている。 ・各チームで調査探究、考察したものを、グループでまとめている。 ・プレゼンテーションを工夫している。 | ○ | ○ | ○ | ○ | ② ③ ④ ⑥ ⑦ ⑨ ① ② ⑤ |
| 11/26 12/1 12/2 12/3 | 31 32 33 34 35 | ●発表を活かし、今後の探究活動につなげる。 ・『笛吹づくり』のプレゼンテーションをする。 ・発表を聞き、考えをまとめる。 ・他のグループのまとめから学び合う。 | 個人 まとめ 表現 | ・グループで、『笛吹づくり』のプレゼンテーションをする場面。(発表の様子) ・発表を聞き、考えをまとめる場面。(聞く様子、自己評価) | ・発表 意見交換を通して、学習を深化させている。 | ○ | | ○ | | ⑧ ① ② |
| 12/10 12/17 | 36 37 38 | ●これまでの学習をまとめ、今後の生き方につなげていく。 ・これまでの学習をまとめ、さらに探究すべき課題をつかむ。 | 個人 まとめ 表現 | ・これまでの学習をまとめる場面 (個人のまとめ) | ・自分の可能性に気づき、自分の良さを生かし、夢や願いの実現に向けて行動する態度をもっている。 | | | ○ | ○ | ③ ⑤ |

3. 学習活動の実際

(1) 生徒の活動(全38時間)

オリエンテーション

笛吹市の特色や前単元での京都・奈良の産業や文化についての学習を生かし、「笛吹づくり」に向けて、「自然・環境」「文化・芸術・伝統」「農業」「商業・観光」「工業」「情報・国際」「福祉・医療・人権」「スポーツ・娯楽」の8つのテーマを設定することにした。生徒はこれまでの経験や、興味・関心からテーマを選択した。自分たちの知っていることを出し合い、探究したいテーマを決め、夏期休業を利用してインターネットや資料を使い、笛吹市についての情報を収集した。

笛吹市を知る

調査活動をしてわかったことをテーマごとに発表した。さらに、毎月発行されている「広報ふえぶき」を、テーマ別にスクラップし掲示した。この活動により笛吹市の現在の姿についての全体像をつかむことができた。

この発表会の後、笛吹市についてさらに深く知りたいこと、こんな笛吹市にしていきたいという自分の課題意識に基づいて、探究テーマの再構築を行った。その後、同じテーマを選んだ者同士で各自が探究したいことを出し合った。そして、どんなプロジェクト(私たちの考える、これからのまちづくり)にしたいのか、どんな調査をすればよいのかを考え、8テーマ41グループによる1つのプロジェクトにまとめ上げることにした。

実地調査

調査活動を進めるにあたり、テーマに沿って笛吹市にはどんな課題があるのか、将来はどんな笛吹市にしていきたいのかを考え、これからのまちづくりについてプロジェクトの内容を検討した。どこを訪問して、どんな質問をしたいのかを計画した。

計画に沿って、聞き取り・見学調査に出かけた。

第3学年総合的な学習の時間 現地調査一覧表

| グループ名 | 事業所名 | グループ名 | 事業所名 |
|------------|----------------------|------------|---------------------|
| 1 自然・環境 | 笛吹市役所 市民環境部 ゴミ減量課 | 4 商業B | オギ/笛吹店 |
| | 甲府・峡東地域ごみ処理施設事務組合 | | イツモアール宮ショッピングセンター |
| | 笛吹市役所 公益企業部 水循環・下水道課 | | ダイソー石和温泉店 |
| | 笛吹市役所 産業環境部 農林振興課 | | ファミリーマート八代町南店 |
| | 笛吹市役所 産業環境部 農林振興課 | | グリーンファーム |
| 2 文化・芸術・伝統 | 笛吹市役所 八代支所 地域課 | 5 工業 | 笛吹市役所 産業観光部 観光商工課 |
| | 笛吹市役所 産業観光部 観光商工課 | | 笛吹市役所 経営政策部 財政課 |
| | 笛吹市役所 産業観光部 観光商工課 | | 機械クリニック(八代) |
| | 笛吹市役所 八代支所 地域課 | 6 情報・国際 | 笛吹ワイン株式会社 |
| | 笛吹市教育委員会文化財課 | | 笛吹市御座国際交流協会 |
| | 胡蝶モザイク研究所 事務所 | | 笛吹市役所 産業観光部 観光商工課 |
| 3 農業 | 御坂町4Hクラブ | 7 福祉・医療・人権 | 笛吹中央病院 |
| | 笛吹市役所 産業観光部 農林振興課 | | 八代福祉センター |
| | 埴川農産物直売所 | | 八代総合会館 |
| | 長塚クリニック | | |
| 4 観光A | 糸柳 | 8 スポーツ・娯楽 | 笛吹市役所建設部町づくり整備課 |
| | 石和駅周辺の土産屋(若菜屋) | | 笛吹市教育委員会スポーツ振興課 |
| | 温泉 | | 八代・埴川各スポーツ公園・テニスコート |
| | モンデ酒庄 | | 笛吹市教育委員会スポーツ振興課 |
| | 黒坂オートキャンプ場 | | 笛吹市教育委員会スポーツ振興課 |
| | 八代園・中村園 | | 笛吹市役所 経済政策部 経営企画課 |

特に笛吹市役所においては、笛吹市教育委員会の支援を受け、連絡調整をする中で、各課の課長さんをはじめ課をあげて時間を調整して、対応していただけた。調査活動の際には、市の資料の提供と行政の立場から質問に答えていただいた。行政の生の声を直接聞いたことにより、理解を深め、これからの笛吹市への願いが明確になり、自分たちの考えをまとめやすくなった。

プロジェクトの発信

調査したことを元に、自分たちの考えや願いを入れて、分かりやすく発表するために、どのような順序で発表を構成するのか、どのような内容を入れるのか、どんな方法で発信していくのか、など話し合いを重ねてプロジェクトをつくり上げた。

- * 『笛吹市をきれいに ゴミ減量を目指して』
- * 『継続・発展! 笛吹文化! 《KHFB》』
- * 『農業後継者を増やすために 農業の良さを伝えよう』
- * 『観光客を増やそう 桃・キャンプ・温泉』
- * 『笛吹市活性化プロジェクト 市民のニーズにこたえる商業』

- * 『NSK 農業を支える工業エリアをつくろう』
- * 『姉妹都市交流プロジェクト 市民に広めよう姉妹都市』
- * 『作り出そう“Happy Life” 生徒から高齢者までの交流の場をつくろう』
- * 『河川敷改造計画 浅川河川敷にスポーツ広場を作ろう』

これらのプロジェクトを3回に分けて発表会を行った。

発表の方法は、全グループがパワーポイントによるプレゼンテーションを作成し行った。中には寸劇や掲示物で発表するグループもあった。1年生の時から取組により、全員の生徒がかかわり発表することができた。

各グループの発表を聞きながら、「プロジェクトのよかったこと・課題だと思うこと」「さらによいプロジェクトにするために」「自分や他のプロジェクトと関連付けたこと」「感想」をワークシートに記入した。その後、ワークシートを利用して、意見交換を行った。笛吹市の活性化に向けたすべてのプロジェクトに関連性があり、さらに深めて考えていきたいことや新たな発見などが生徒から出された。



活動のまとめ

これまでの「笛吹づくり」35時間の活動を通して、笛吹市の将来へ向けての提言、自分と笛吹市とのかかわり、自分の生き方を考える機会とすることができた。生徒一人一人の課題意識からスタートし、同じ課題をもつ者同士でグループをつくり、情報収集、整理分析、情報の発信をする中で、協同して活動をつくりあげることの大切さや喜びを知り、自分の生き方について

再考する機会をつくることができた。そして、自分の可能性に気づき、自分の良さを生かし、夢や願いの実現に向けて、3時間をかけ一人B4・1ページの新聞にまとめることができた。

(2) 評価の実際

評価は、生徒の自己評価表と教師の見取りにより行った。学年を8グループに分けているため、一人の教師が20人前後の生徒を担当する。活動が進むと同時に個人の設定課題が変更になるため、生徒の入れ替えも行った。



ワークシート・自己評価表は、活動が終わるごとに担当教師に提出し、教師がコメントを入れた。

教師の見取り評価は、具体的な観点別評価規準を設定し、観点を意識しながら生徒の活動を支援するようにした。また、エクセルによる評価シートを作成して教師評価(A・B・C)と生徒の様子を入れ、担当教師が替わっても生徒の様子が分かるように工夫した。こうした取組が、一人一人の生徒の学習の質を高めたものとする。

(3) まとめ

単元では、同じ構成(課題設定 情報収集 整理分析 まとめ表現)を3回繰り返した。このことにより、生徒が活動の見通しをもちやすくなった。また、活動を修正しながら課題追究の方法と技能を身に付けることができた。

単元を終え、地域へ出て、地域の方に活動協力をいただきながら地域の情報を得て、活動を進めることは、生徒の学習意欲の高まりと地域を愛する心を育てることにつながっていくことを強く感じた。

課題解決力、コミュニケーション能力の育成を通して、地域を元気づける力を育てる「輝きセミナー」

鳥取県八頭町立八東中学校

鳥取県八頭郡八頭町北山 51 番地

電話番号：0858-84-2014

E-mail:hatto-j@mailk.torikyo.ed.jp HP アドレス：http://www.torikyo.ed.jp/hatto-j

学校や地域に関する情報

(1) 学校規模

生徒数 111 名、教職員数 19 名

学級数 10 学級（内、特別支援学級 4 学級）

(2) 学校の教育活動の特色

総合的な学習の時間の協同的な活動との連携を図り、教科の学習でも、「学び合い」をキーワードに、生徒同士の聞く・話す活動に重点的に取り組んでいる。また、留学生との交流会や JICA の出前講座などにも取り組み、人との出会いを大切にしている。

(3) 地域の特色

中山間地に位置し、「フルーツの里」と称して、梨・りんご・柿などの果樹栽培が盛んである。地域には、「平成太鼓」という中学生もかかわっている和太鼓の活動がある。

総合的な学習の時間の全体計画

1. 目標

地域のことを好きだという生徒は比較的多いが、地域と自分とのかかわりや将来の生き方について考える生徒は少ない。そこで、次の3つの視点から目標を設定した。

- ・地域とかかわる探究的な学習を通して、地域を愛する心を培うとともに、課題を解決するための資質や能力を育成していく。
- ・課題解決の過程で人との出会いを大切に、学び方やものの考え方を身に付けるとともに、自分の意見や考えを適切に伝えることができるようにする。

・地域の一員としての自覚をもって将来の生き方を考えるような態度を育てる。

2. 育てようとする資質や能力及び態度

地域の現状を理解して地域にかかわろうという心情を培い、3年生で実際に地域の活性化に取り組むことで課題解決力を育成する。また、地域の人々とふれあう活動によりコミュニケーション力を高めるとともに、地域と自分とのかかわり踏まえて将来の生き方を考えるような自己理解力を養う。

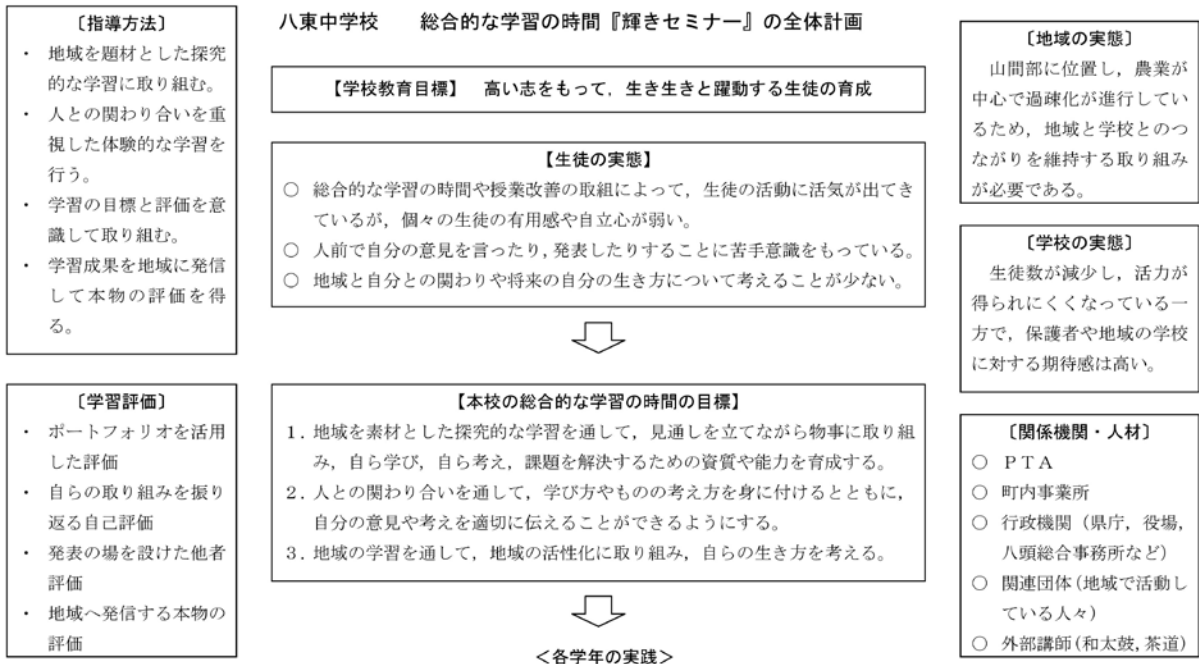
3. 内容

1年生は、小学校までに得た地域に関する知識を確認したり、職場訪問など地域を知る活動を行う。2年生は、職場体験で地域の人と深くかかわり、ものの見方や考え方を広げたり、より深く地域のことを学び、地域の活性化について考える。3年生は、最終学年として、実際に地域の活性化に取り組む、地域に貢献する。そして、卒業を前に、自分の将来の生き方について考えてみる。

4. その他の特色

「タウンリサーチ2(職場体験)」、「タウンリサーチ3(修学旅行)」の単元は、学年をまたがって構成しており、学年間の連携を図っている。また、各学期末に、「輝きトーク」と名付けて生徒と担任外の教師とで総合的な学習の取組について面談する時間を設けている。このようにして、全職員が総合的な学習にかかわるようにしている。

全体計画



<各学年の実践>

| テーマ | 第1学年（50時間） | 第2学年（70時間） | 第3学年（70時間） |
|---|--|--|--|
| | 地域を知ろう | 地域に学ぼう | 地域を活性化しよう |
| 主な学習内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の自然環境や社会環境の現状を知る。 ・ 地域の産業や働く人々の地域への思いを知る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の現状の深い理解により、地域の将来について考える。 ・ 地域を元気づけている人の考えを学び、自らの取組を考える。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 都市と地方との関係や外から見た地域などの現実について考える。 ・ 地域を活性化するアイデアと自分で行うことの実践を考える。 ・ 自らの10年後の姿と生き方を考える。 |
| つきたい力 | 課題解決力 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の活性化に取り組んでいる人の思いや工夫を学び、自分なりに活性化のアイデアを考える。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域を活性化するアイデアを実践したり、提言にまとめて発表したりする。 |
| | コミュニケーション力 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 適切に用件を伝えたり、応答したりする。また、質問したり、聞いた話の要点をまとめてたりする。 ・ 電話のかけ方、依頼の仕方、訪問のマナー、礼状の書き方などを身に付ける。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の人とふれあい、よりよい人間関係を築く。 ・ 自分の意見や考えを分かりやすく伝えて、それに対する助言や意見を得る。 |
| | 自己理解力 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域と自分とのかかわりについて考える。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の一員としての意識を高め、地域にかかわろうとする心情を培う。 |
| 主な単元（活動） | 「トライアルタイム1」（水ノ山宿泊研修-地域の紹介） 「タウンリサーチ1」（職場訪問） 「タウンリサーチ2」（職場体験への取組） | 「タウンリサーチ2」（職場体験） 「トライアルタイム2」（タウンリサーチ2の発表準備） 「タウンリサーチ3」（修学旅行への取組） | 「タウンリサーチ3」（東京修学旅行） 「輝け！マイタウン」（地域活性化プロジェクト） 「マイドリーム」（未来予想図-10年後の私） |
| 「生き方フォーラム」（地域を元気づけている人の話）、「輝きトーク」（教師との対話） | | | |

<教科・領域との関連>

| 教科教育 | 道徳教育 | 特別活動 | 人権教育 |
|---|---|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ○ 学ぶ意欲と聞く力の向上 ○ 探究的な学びの素地を培う ○ 協同的な学習の場面を設定 ○ わかる授業、活気のある授業の展開 ○ 知識・技能の確実な定着と活用 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 道徳の時間を要として、人を大切にすることを育む ○ 指導の重点項目 「感謝・思いやり」「自他の尊重」「信頼・友情」「自主・自立」「向上心」「礼儀」「役割と責任」 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 協同的な学びの素地を培う ○ 自分たちの学校を活性化する手立てを考える ○ 指導の重点項目 生徒会活動、学級活動、部活動の活性化 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 人権感覚を高め、豊かな人間関係を築く ○ 人権問題などの課題を知るだけでなく、それを解決するための手立てについて学習する ○ 自らの関わりについて考える |

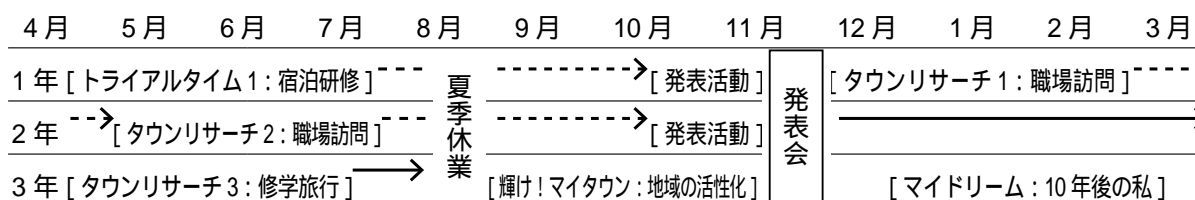
※「地域」とは、「自分の住む地域」のことであり、八東地域、八頭町、鳥取県東部地区など生徒自らが直接関わることのある地域のことを示す。

総合的な学習の時間の実践事例

第1学年 単元名「タウンリサーチ1（地域で働く人に話を聞こう - 職場訪問）」

1. 年間指導計画

1年生の最初の単元は「トライアルタイム1」である。これは、本校の地域に関する探究的な学習の導入と位置付け、宿泊研修の場を活用しながら、小学校までに得た知識を基に、地域を紹介するプレゼンテーションを作成する学習である。作成したプレゼンは、校内文化発表会や職場訪問で発表する。そして、「タウンリサーチ1」で地域をさらに詳しく知り、3年生で地域を活性化するための取組を行うプロジェクト学習の第一段階とする。地域の良さや課題を探究するために、地域にある職場を訪問して、その職業を知るとともに、地域とのつながりや、地域の良さや課題を聞き取る。聞き取った結果から、地域をより良くするアイデアを考えた上で、職場体験へと地域の探究的な学習を進めていく。



(注) 矢印-->は、職業を素材とした探究的な学習のつながりを表す。
矢印->は、地域の活性化を課題とした探究的な学習のつながりを表す。

【図：3年間の学習の系統的なつながり】

2. 単元計画

(1) 単元設定の理由

地域のことが好きな生徒は比較的多いが、地域と自分とのつながりや将来の生き方考える生徒は少ない。生徒は、地域の人の温かさや自然の豊かさを感じる一方で、地域に不便さを感じている。しかし、これは生徒が限られた日常生活で感じていることである。そこで、3年生で地域を活性化する取組を行うことを目標に、地域のことをよりよく知るにはどうすればよいかを考える。その一つとして、地域で働く人を訪ね、地域のことを聞き取る活動をする。この職場訪問によって、地域を支える職業を知るとともに、職場と地域とのつながりや、地域の良さや課題を知る。そして、地域への理解を深めるとともに、地域をより良くしようとする積極的な態度を養う。

(2) 単元の目標

- ・地域で働く人々を訪ねて聞き取った内容から、職場と地域とのつながりや地域の良さと課題などに気付く。
- ・聞き取った内容をまとめ、互いに発表し合い、多様な意見や見方があるとともに、共通していることを見つけ出す。
- ・地域の良さや課題を知ること、地域をより良くしようとする積極的な態度を養う。

(3) 単元の評価規準

- ・聞き取った内容を整理・分析して、職場と地域とのつながりや、地域の良さや課題に気付いている。
- ・気付いた内容を出し合い、相違点や共通点を見つけ出している。
- ・地域をより良くしようとするアイデアを積極的に考えている。

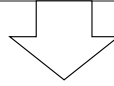
(4) 単元の指導計画(18時間)

【課題の設定】(3時間)

「トリアルタイム1」で作成した地域を紹介するプレゼンテーションを活用して地域の人とふれあうことから、地域をより良くしていこうとする意欲をもつ。

プレゼンテーションをする対象の人やその方法を考える。…職場訪問につなげる。

プレゼンテーションの練習をする。配布資料を用いる。



【情報の収集】(10時間)

聞き取り活動として、職場訪問に取り組む。

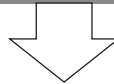
地域の職業に関して自分たちが持っている知識を整理する。[ウェビング法、KJ法的手法]

訪問する職場の選定と質問内容を考える。[地図帳・電話帳、ウェビング法、KJ法的手法]

各自が訪問する職場を考え、電話で訪問の依頼をする。…一人一職場

職場を訪問する。…自分たちが作成した地域の紹介をプレゼンし、感想を得る。質問をして、聞き取った内容を記録する。

訪問した職場に礼状を出す。礼状の書き方は、国語の授業で指導する。



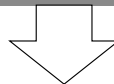
【整理・分析・考察】(2時間)

聞き取った記録から、職場と地域とのつながりや、地域の良さや課題を整理・分析・考察して、地域の人が考えていることや、自分が気付かなかったことなどをまとめる。

聞き取った内容を整理し、キーワードを取り出す。

キーワードを分析して、地域の良さや課題などの特徴的なことに気付く。[KJ法的手法]

地域の良さや課題の要因やそれらがもたらす実態などを考えて、活性化につなげる。

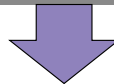


【まとめ・表現】(3時間)

整理した内容を分かりやすく他者に伝える方法を考え、まとめる。

…レポート、新聞、パワーポイントなど

まとめを発表し合い、共通点や相違点を整理して、地域の良さや課題の理解を深める。



【「タウンリサーチ2」への課題の設定】

地域をより良くしていくにはどうすればよいか、現時点での活性化のアイデアを考える。[ウェビング法]

自分たちの考えを持って職場体験へ行き、地域の人から意見や助言をもらう。

3. 学習活動の実際

平成20年度までは、進路学習の一環として、1年生で職業調べをして、2年生で職場体験を行ってきた。進路学習を視点とした体験的な活動では、地域にある職業は限定され、生徒の興味関心に応じた学習に発展していくことが難しかった。そこで、3年間で、進路学習から地域の活性化に取り組む探究的な学習へと組み替えることで、地域に発信したり、貢献したりする活動となり、生徒の課題解決力、コミュニケーション力、自己理解力が高まることを目指した。

(1) 課題の設定

1学期の「トライアルタイム1」で、生徒は、自分たちが感じている地域の良さを他者に紹介するプレゼンテーションを作成した。次のステップとして、地域をさらによくしていくためにどうしたらよいかを考えるために、もっと地域のことを知ろうということになった。

そこで、生徒は、自分たちが作成したプレゼンテーションを実際に活用するとともに、地域の人たちが地域をどのように見ているのかを知る必要があると考えた。話合いの結果、幅広く意見や助言を聞くために、職場を訪れ、プレゼンをして聞き取りをすることになった。

(2) 情報の収集

職場訪問の事前準備

職場を訪問するにあたって、生徒は、職業について自分たちが知っている知識を整理した。学級で班になり、各自が地域にある職業を付箋紙に書き出し、KJ法的手法で分類してみた。その結果、生徒は、自分たちがよく知っている職業は身近な商店や病院、美容室など日常生活にかかわるものばかりであることに気付いた。そのため、職業の種類と分類の仕方について調べて、より偏りがないように訪問先のリストを作成した。

次に、実際に訪問して尋ねる質問の内容を考えた。一人一職場を分担して、仕事そのものに

関すること、仕事と地域とのかかわり、地域の良さと課題などについて尋ねることになった。



KJ法的手法を用いて職業を分類する様子

職場訪問

コミュニケーション能力を高めるために、生徒が直接、電話で訪問の依頼を行った。ただし、突然の電話で事業所が戸惑わないように、教師が事前に学習目的を伝えて、生徒が依頼の電話をすることの了承を得ておいた。また、電話中は、不測の事態に備えて、隣で見守っていた。



職場訪問を依頼する様子

ほとんどの生徒が、全く知らない人に電話をする経験は初めてなのでとても緊張していた。事前に、教室でロールプレイをして練習したが、いざ本番となると、担当の方が不在で改めて連絡しなければならなくなるなど、臨機応変な対応が求められることもあった。どの生徒も、訪問の依頼を終えると、安堵した表情をしていた。そして、全員が職場訪問を成し遂げて達成感を得ていた。

職場訪問を終えた生徒の感想に、次のようなものがあった。

最初入る時、緊張し過ぎて頭の中が真っ白になってしまっていて、どうすればいいのか分からなくなっていました。でも、お店の方がとても優しく、温かくてうれしかったです。緊張がちょっとほぐれました。名前を聞くのを忘れていたのが一番の失敗でした。2年生の職場体験学習でも行きたいと思いました。

また、生徒のお礼状を保護者に読んでもらったところ、次のような感想をいただいた。

私は、訪問先にちゃんと行けるのかな？というところから心配していましたが、無事に行き、しっかりとお話も聞いて、いろんなことを感じて帰ってきたようなので、成長していると思いました。

この職場訪問を体験して、生徒は、職場の人とつながりができるとともに、一人で訪問をしたことで大きな自信を得た。

(3) 情報の整理・分析・考察

訪問して聞き取った内容をグループで整理・分析して、地域の課題を考えた。その結果、共通したものは、「高齢化」「少子化」「地域の活性化」「知識や技能の伝承」などであった。スーパーマーケットを訪問した生徒は、地域の課題について、次のように語っている。

地域には、高齢化で若い人が少なく、車社会で、若い人は大きなスーパーまで行き、ここで買い物をする人が少なくなっていました。だから、ぼくたちが変えていきたいと思いました。

(4) まとめ・表現

新聞形式でまとめることで、聞き取った情報を分かりやすく整理したり、訪問の感想を掲載

したりすることができた。また、見出しやレイアウトを工夫することもできた。新聞を読んだ多くの職場から、次年度は、職場体験を受け入れたいという前向きな声が寄せられた。生徒には、全員の新聞を綴って冊子にして配り、職業や地域についての理解を深めた。



職場訪問をして作成した職業新聞

(5) 「タウンリサーチ2」への課題の設定

整理した課題について、ウェビング法を用いて、現時点で考えつく解決策を考えた。例えば、「若者が好むようなもの(イベント、お店、食べ物)を増やす」「特産のフルーツを利用する」などである。これらはまだアイデアの段階であるが、2年生、3年生と、アイデアを絞り込み、具体化していきたい。そして、3年生で地域の活性化に取り組むことを目指して探究的な学習を進めていきたい。